

2022年11月15日放送

小児への服薬指導と投与の工夫

ほじん薬局 片島店
木下 博子

ほじん薬局片島店は、小児専門病院である大分こども病院の門前にあり、病院と同じように24時間365日対応しています。

私は、今年3月まで大分こども病院で病棟主体の薬剤業務に携わり、7月半ばから片島店に勤務しています。今日は、今までの経験をもとに「小児への服薬指導と投与の工夫」というテーマでお話しさせていただきます。

小児への服薬指導

小児の服薬指導は、服薬するヒト（患児）と主に服薬指導（説明）を受けるヒト（保護者）が異なることが特徴であり、指導の難しさにつながっていると言われています。

「どんな指導をすればよいのだろう」と模索していた時に、飯山先生たちの「急性上気道炎または喘息様気管支炎で受診した7歳未満の子ども523名の服薬状況とその治療効果を検討した結果、服薬できなかった子は、服薬できた子と比べて症状が悪化したり、改善しなかった割合が3倍と有意に多い」という報告を読みました。これにより、小児への服薬指導は、保護者が服薬の必要性を十分に理解し、「薬を飲ませる」ことに積極的になってくれるような「伝わる指導」を保護者だけでなく患児も対象に行うべきだと考えました。

具体的には、

- 1) 医師の説明によって服薬の目的が理解できているかを確認し、更にそれを患児にも理解できることばで伝える
- 2) 保護者が不安や疑問なく服薬させることができる
- 3) 患児がすすんで治療に参画できる

などを柱に日々工夫しながらやっています。

飲ませ方の工夫

薬が飲めず入院となった患児の保護者から「こなぐすりが上手に飲ませられなかった。薬局で飲ませ方を教えてもらってあげばよかった」と伺ったことがきっかけで、薬の説明後、保護者に、服薬に関してわからないことや不安なことはないかを尋ねています。

初めて服薬させる保護者はもちろん、「飲ませ方がよくわからない」、「上手に飲ませる自信がない」と言われる方には、その子に応じた、指、スポイト、哺乳瓶の乳首、スプーンなどを使って飲ませる方法やお薬だんごを作って飲ませる方法などを説明します。そして、可能であれば一緒に飲ませています。

3~4歳くらいまでの「薬が苦手」という患児には、薬を飲料や食品に混ぜて飲ませる方法を指導しています。

味の改良をする前のセフジトレンピボキシルが発売されて間もないころ、「薬の切れはよいのだけど、何せ飲めないという子が多い」と医師より伺い、味の工夫をすれば飲めるのではないかと考えました。そこで、この薬が飲めなかった入院児 37 名を対象に、患児の好きな味のフレーバーを混合して投薬しました。すると、量が多くて全量飲めなかった 3 名以外は服薬できました。これ以降、薬が苦手な患児には、問題がない限り、患児の好きな味の飲食物との混合により服薬動機を高めるようにしています。

薬が苦くて飲めないという訴えがあった場合、飲食物ではありませんが、まず、単シロップと混ぜることをお勧めします。単シロップは白糖の水溶液で、アレルギーの有無に関係なく使え、しかも安価です。他の薬剤と一緒に処方されれば処方箋で出すこともできます。ただ、あまりたくさん加えるとくどいくらいの甘さ

薬を飲ませる方法(1)

指:こなぐすり

薬を少量の水または白湯でペースト状・だんご状に練り、味のわかりにくい、頬の内側や上あごに塗り、その後すぐに、水や白湯などを飲ませる。

哺乳瓶の乳首:シロップ、こなぐすり

哺乳瓶を使っている時期。からの乳首を加えさせ、吸い出したら少量の水や白湯などに溶かしたこなぐすりやシロップを乳首内に垂らして吸引させる。乳首内に薬が残らないように水や白湯などを追加して飲ませる

薬を飲ませる方法(2)

スポイト:シロップ こなぐすり

シロップや少量の水や白湯などに溶かしたこなぐすりをスポイトで頬の内側に少しずつたらしつけて飲ませる。

スプーン:こなぐすり

スプーンに少しの水(水を入れたコップにスプーンをくぐらせて取り出し、スプーンの底に残る程度の水)を入れ、その上にこなぐすりを入れてそのまま飲ませる。その後、水やジュースなどを飲ませる(口直し、マスキング)。

いずれの場合も最初に多めの水で溶かすと飲み終わる前に薬の苦みが出たり、量が多くて飲み切れず薬を飲み残す可能性があるので注意。

薬を混ぜるのに使用可能と思われる食品

食品名	評 価
アイスクリーム	味の濃い物の方が、薬の味を隠すことができる。ラクトアイスは△ チョコレート味は、より薬の苦味を隠すことができる
コンデンスミルク	薬の味を隠すことができる
メープルシロップ	香りが強く、薬の味、においを隠すことができる
チョコレートクリーム	甘く、薬の苦味を隠すことができる
ピーナッツクリーム	味が濃い
牛乳	口の中に牛乳が膜を作るので苦みを感じにくいですが、牛乳に含まれるCaとキレートを形成して吸収が悪くなる薬剤があるため注意
コーヒー牛乳	牛乳より甘いので、薬の味を隠すことができる
ミルクココア(粉末)	味が濃いので薬の味は隠すことができるが、量が増えるのが難点
ジャム	酸味の強い物は避けた方がよい
カラメルソース	苦く甘い味で薬の味を隠すことができる

になってしまうので注意してください。家庭では、ガムシロップで代用できます。また、飲食物では、アイスクリーム、練乳（コンデンスミルク）なども薬と混合するのに使えます。

飲食物と混合して服薬させる方法を指導する時には、薬を混ぜてはいけないものがあること、混合により味が悪くなって飲みにくくなるものがあることなどを保護者に伝えます。この情報提供には、メーカー作成のリーフレットが大変便利で参考にしています。クラリスロマイシンのように苦みをマスクするためにアルカリ性物質等でコーティングしてあるものと酸性の飲料などを混合すると非常に味がまずくなって飲みにくくなるので、これらの混合は絶対に避けるようにと理由を説明しながら伝え、保護者は、より理解できるようです。

患児とはこんなやり取りもします。患児が「つらいと感じている症状を治すためには、薬の助けがいることを話します。そして、「このお薬、何と一緒に飲む？お水？お茶？ジュース？ヨーグルト？」「ヨーグルト！」「じゃ、この次、ヨーグルトで飲めたよって教えてね」「わかった！」と、患児本人に服薬する方法を決めてもらうことによって、患児がすすんで治療に参画できるようにしています。

飲食物との混合で注意すること



★薬を混ぜてはいけないもの

- ・薬の味のせいで嫌いになり、食べなくなると困るもの
主食となるおかゆやうどん　とうふなどのぜひ食べさせたいもの
- ・薬の成分が熱によって変質する恐れがあるもの
熱い牛乳やみそ汁、スープなど
- ・混合により薬の味が悪くなったり、吸収が低下するもの
- ・粉ミルク(原則、粉ミルクには混ぜない)
粉ミルクを熱した時に投与量が不十分になる
薬の味でミルク嫌いになる可能性

★混合する時は、1回分を飲む直前に混ぜ、放置しない
できれば1口で食べたり、飲むことができる量に混ぜる

薬と飲食物の相性

メーカー資料より

飲食物	混ぜると 飲みやすくなる 	混ぜると 味が悪くなる 
オレンジジュース	クラバモックス オセルタミビル	クラリスロマイシン アジスロマイシン トスフロキサシン
スポーツドリンク	オセルタミビル	クラリスロマイシン アジスロマイシン
バニラアイス	クラバモックス クラリスロマイシン アジスロマイシン トスフロキサシン	オセルタミビル
ヨーグルト	クラバモックス オセルタミビル	クラリスロマイシン アジスロマイシン

プレパレーションを用いた説明

3歳以上の患児には、患児自身に服薬の必要性を理解させ、自ら進んで飲んでくれるような指導に取り組んでいます。口頭のみでは理解させることが難しい場合に、大分こども病院では、プレパレーションをとりいれました。

吸入ステロイド薬のプレパレーションでは、ステロイド薬を吸入する目的と吸入を続けるとどうなるかを伝えるために、ツールとして絵本と気道模型を保育士とともに作成しました。指導は、最初に保育士が、患児と保護者にプレパレーションを提供し、そのあとで薬剤師が実技指導を行いました。プレパレーションを提供した子どもたちは、提供できな

吸入ステロイド薬のプレパレーションツール







写真提供：大分こども病院保育士

かった子どもたちに比べて、薬剤師の指導時に、「それ、空気の通り道が広がるお薬でしょ！」と積極的にかかわってくれたり、吸入を持続できている子が多いと感じています。他のプレパレーションを用いた指導でも同じような傾向でした。保育士が提供したプレパレーションは、子どもの心の準備や不安軽減だけでなく、患児の「意欲」「達成感」をも引き出し、服薬意欲の向上にもつながっていると思っています。

おとな飲み

また、3歳以上の患児には、できるだけ「薬は水や白湯で飲む」という原則に従って服薬させるために、患児自身に薬の飲み方を指導します。その際に参考にしているのは、稲垣美知代先生が考案された「おとな飲み」です。

「おとな飲み」は、水が入ったコップは患児に持たせ、以下のように声をかけ、説明しながら、こなぐすりを水で飲ませます。

「お口に大きな池を作ってね」と声をかけ、水をたっぷり含ませます。「おうちの人に、薬をお口に入れてもらうよ。あーん」。保護者は、こなぐすりを下あごの前歯の裏側に落とし込みます。「はい。お水をごっくん」。

稲垣先生もおっしゃっていましたが、「おとな飲み」というネーミングは、子どもの自尊心をくすぐるようで、それまで服薬できなかった子でもこの方法で服薬できた例を多く経験しています。

最近では、多くの後発品が出ています。後発品の中には、味の改良にも取り組まれていて、先発品と比べて味がよくて飲みやすいものがあります。そのため、服薬困難な子には、変更不可でない限りあえて後発品を勧めることもあります。

保護者の不安や誤解を防ぐ工夫

いつもと違う尿や便の色は、保護者を不安にさせます。尿が赤みを帯びていつもより濃い色になる、便や舌が黒くなるなど薬によって生じる変化は前もって伝えます。そのほか、頓服、屯用はどのくらいの時間を空ければよいか、1日何回ぐらい使えるか、坐剤が途中で出てしまった時やツロブテロールテープがはがれた時の対応も前もって伝えています。

病院に勤務していた時の辛い経験から、医療従事者には当たり前と思われることでも保護者にはあえて口に出して説明しています。看護師が混ぜて飲ませてよいといったからと、1回量のミルク 100mL くらいにアスピリンを混ぜて飲ませようとしたもののミルクをほとんど飲まないで困っていたお父さん。坐剤を半分入れるようにと薬剤師に言われ、坐剤の半分の所まで挿肛し、溶けるまで持っていたおじいさん。いずれの場合も看護師や薬剤師は、「1~2mL くらいの少しのミルクに混ぜてもよいというつもりだった」「当然、坐剤を半分に切って使うと思っていた」と話していました。今は、「薬を何かに混ぜる時は、飲ませる直前に、1回又は1口で食べたり、飲んだりできる量に混ぜてね」「坐剤は1回に2/3個だから坐剤のこの辺をカッターでスパッと切って

使ってね。切るときは、汚染のことを考えてコンテナ（容器）ごと切ってね」など、当たり前と思われることも省くことなく保護者に説明しています。

保護者には、「薬を飲ませるときは笑顔でのませてね。薬が飲めたらほめてあげてね」とお願いします。お母さんやお父さんの笑顔とほめられること、これは、子どもが服薬に前向きになれる魔法だと、私は思っています。

まとめ

今日は、以下のことをお話ししました。小児への服薬指導は、保護者が服薬の必要性を理解し、「薬を飲ませる」ことに積極的になってくれるような「伝わる指導」を保護者だけでなく患児も対象に行うべきだと考えていること。

そのための具体的なかかわりとして

- ・年齢に応じた薬の飲ませ方の指導
- ・薬が苦手な患児には、好きな味の飲食物との混合を勧め、服薬動機を高めていること。
- ・3歳以上の患児には、服薬の必要性を理解させ、自ら進んで服薬するような指導に取り組んでいること。
- ・保護者には、薬は笑顔で飲ませ、飲めたらほめるようお願いしていること。

など個々の患児に適した方法を日々工夫していること。

患児、保護者に寄り添う服薬指導はいまだ試行錯誤中ですが、少しでもお役に立てたならば幸いです。

文献

飯山道郎, 河島尚志, 根本しおり, 他: 小児の服薬コンプライアンス. 小児科 2002 ; 43 : 72-78.

稲垣美知代: 自尊心をくすぐる薬の「おとなのみ」指導, 外来小児科 2014 ; 17:467-468

「小児科診療 UP-to-DATE」

<https://www.radionikkei.jp/uptodate/>